くがはら

がんばれ、ニッポン

久が原地区管内			
	人口	男	12,297人
		女	12,520人
		計	24,817人
	世帯		10,945世帯

平成14年3月1日現在

発　行：わがまち大田久が原地区推進委員会
編　集：地域情報紙「くがはら」編集委員会
事務局：大田区久が原特別出張所
〒146-0085 大田区久が原2-19-3
TEL（３７５２）４２７１
FAX（３７５２）４５１４
題　字：三木兼吉

早く学校へ行きたいな
ピカピカの一年生
一年生になったら　ともだち一〇〇人できるかな

今年は久原小学校に約百名、松仙小学校に約百二十名のピカピカ一年生が誕生します。入学式に先立ち、大田区立久が原保育園を訪ね、当日居合わせた園児のうち久原小学校入学児四名、松仙小学校入学児三名にインタビューを試みました。

学校に入学するという新しいことへの期待と、新しい勉強をすることへの不安とが交差し、大きな夢が膨らんだり萎んだり揺れている様に感じられました。

学校に行ったら、やりたいことはなぁーに？

ゆうき「サッカー」
なおき「バスケット」
れいな「バレーボール」
こうじ「怪獣の勉強」
将来なりたい職業は？
ゆうき「大工さん」
もえ「ケーキ屋さん」
こうじ「すし屋さん」
しずか「パーマ屋さん」
れいな「ケーキ屋さん」

予想に反して堅実な答えでした。

保育園では担任の武田幸子先生、結城里佐先生の指導により、園庭での遊びを中心に夏のプール、冬のたき火（芋焼き）などの会を行い、園児たちの独創性を盛り上げております。

学校に入学してからの勉強や給食についての期待は大きく、「早く学校に通いたいという思いと、保育園から離れたくないとの思いが三月中頃から強くなるでしょう」との豊田早苗園長先生の話に納得しました。

こどもたちが早く学校に慣れて、新しい勉強に励んでくれることを期待します。

（小原洪一）

災害発生にそなえて
地区対抗防災コンテスト開かれる

去る二月二十四日、大森十中にて久が原東、久が原西、久が原南、道々橋、徳持南、徳持北の各自治会の方々が大勢集まり、久が原・池上地区の防災コンテストが開催されました。会場には、はしご車、ポンプ車、ミニ消防車、起震車があって、乗車したり体験したり。ちょうど昼時で豚汁のサービスもあり、大人にも子どもにも大人気でした。そのほか防災用品が展示されていました。

開始の前に警察署より、最近頻繁に発生している引ったくりについて実演とその防止策の説明があり、いよいよコンテストの開始です。各自治会の代表十名が二組編成で競い、久が原東自治会チームが優勝しました。続いてミニポンプ隊、市民消火隊、消防団がポンプ操法の展示と放水実技を行い、消防署員の迫力のある救助実技で防災コンテストを終了しました。

このコンテストは、「災害発生時は地域で助けあうこと」がいかに大事であるかを教えてくれたのではなかったでしょうか。

（小倉敦司）

松仙幼稚園のお茶会
ひなまつりのお茶会

現代の私達の生活には、正座すること、手をついておじぎをすることはほとんどありません。立ち振る舞いや言葉など、日本の文化として美しいものが減り続けています。

松仙幼稚園では、地域の数江様よりお茶道具をお借りして、毎年お茶会を開いています。

今年は三月一日にお雛様のそばに作られたお茶席で、一人ひとりが「おさきにいただきます」「どうぞ」「ごちそうさまでした」とボランティアのお母様に点てていただいたお茶をいただきました。

春の優しい陽を受けながら、日本の伝統文化に触れました。

（教頭　土屋裕子）

前編集長回顧録
誠実なご協力に励まされて

川又　浩

昭和から平成の世に変わるころ後世に残る地域文化及び歴史の変遷を伝える方法を考える地域有志のプランが、たまたま行政の求めるプランと一致し、出張所を事務局とした、地域情報紙の発行に企画が及ぶこととなりました。その後、種々の協議と試案を重ねて、平成二年七月に創刊号を送り出したのです。以後、毎年四季にあわせて、その時期における催しやニュースを収集して現在に及んでおります。

振り返りますと、当時全く未経験の委員が、各自治会より選出され、半ば暗中模索のうちに編集に当たりましたので、何事にも苦労を伴いました。記事の選択には、地域の旧家や故老、寺社の役職の皆様に頼ることが多く、歴史と時事に対する理解の動向も様々であることを学びながら、編集作業を進めました。

そして足掛け十三年に及びましたが、これら編集歴の中には、諸々の事象にも遭い、はずかしい思い違いなどの経験を味わいながら、編集委員の皆様のご協力により、今日に至りました。

さて私こと、このたび都合により編集の職を若い皆様に後を託すこととなりました。

長い間のご支援とご協力に対し厚く御礼を申し上げます。

編集の成りて寧けし室の花　浩人

編集委員紹介

『くがはら』は、私たちの町の情報を、より広く、よりわかりやすく、地域の皆様にお届けできるよう「わがまち大田久が原地区推進委員会」のもとに編集委員会を構成し、発行しております。

町の皆様のご協力を得て、より多くの情報をお伝えできるよう、編集委員一同へのご支援をお願いいたします。

編集長	小原洪一	（東）
副編集長	高橋房子	（南）
編集委員	野口金治	（東）
同	道上ミヨ子	（東）
同	小倉敦司	（東）
同	新井信子	（西）
同	種田なおみ	（西）
同	佐々木琢磨	（南）
同	福田久美子	（南）
同	醍醐精一	（道）

地域の方々の利用もOK!!
松仙小学校の新体育館がオープン
広さは一・五倍、バリアフリーに配慮、照明は自動昇降式

長い間ご不便をおかけしましたが、松仙小学校の体育館が三月に新しくオープンしました。

振り返ってみますと、足かけ二年にわたって改築工事が行われました。その間、学校では卒業式・入学式・運動会等をお隣の雪谷高校を借りて行いました。校庭が狭くなりましたので、屋上で体育をしたりしました。子ども達は新しい体育館が出来上がるのを心待ちにしていました。

とうとう出来上がりました。新しい体育館は総工費約三億円だそうです。広さは前の体育館の一・五倍になりました。トイレには雨水を利用して環境に優しくし、バリアフリーに配慮しスロープを設け、照明は自動昇降式となりました。もちろん、耐震性にも優れています。

このような立派な体育館ができましたのも、関係各位のお陰と感謝申し上げます。

ぜひ多くの方に、幅広くご活用いただきたいと思います。

（校長　飛田貞子）

イベント情報

■子どもガーデンパーティー
半世紀を超える歴史をもつイベント。創意工夫を凝らした乗り物が毎回楽しみです。
4月21日（日）10時～
洗足池公園（雨天時・六中）
問合先（3752）4271

■クリーン大田運動
美しい大田区を実現するために、地域ぐるみの美化活動を行います。また、6月は強化月間として各自治会のご協力をいただいています。
6月9日（日）10時～は、多摩川河川敷一斉清掃を実施します。皆様どうぞご参加を。
問合先（5744）1365

■西自治会総会
4月25日（木）19時
久が原会館2階大ホール

■西自治会会員名簿作成
5年ぶりに自治会員の名簿を更新します。皆様のご協力をお願いいたします。
5月頃より年内まで実施予定

■南自治会総会
5月12日（日）久が原クラブにて

■南自治会庭木消毒
5月下旬希望家庭に実施

■南自治会防災訓練
6月下旬消防訓練・煙体験・起震車体験など南台公園にて

■久が原シニアクラブ総会
4月20日（土）久が原クラブにて
問合先（3753）5138

■夏休み子どもキャンプ
今年は区内での実施予定です。まだ行ったことのないエリアに皆さんをお連れします。
8月25（日）・26（月）
平和島公園キャンプ場ほか
問合先（3752）4271

このほかにも地域ではさまざまなイベントが行われています。皆様のご参加をお待ちしております。

以上詳しくは
久が原特別出張所
（3752）4271まで

私にもできた！
IT講習会に参加して

二十年程前の現職時代、当時、時代の先端を行く視聴覚教育に没頭し、機器利用・活用を教育現場で推進してきたつもりの私であった。しかし、昨今の科学技術の目覚しい進歩に、もう私は追いついてはいけないと思い込み始めていた。

IT革命が打ち出され、日常生活の中にもじわじわと浸透し始めている。やっぱり私もやらなければなるまいかと、区主催の講習会のお世話になる決心をした。

一日三時間、四日間で計十二時間の講習である。講師は若く、美しい優し気な女性。耳当たりの良い滑らかな口調で「パソコンって何だろう」の説明から入っていく。

私にとって受け入れ難い横文字・仮名文字名詞も、解りやすく淀みなく説明が付け加えられる。聞いている瞬間は納得し、学習は進められる。

マウスの扱い、ウィンドウズのルール等、間違いやすい点から説明があり、緊張する指先・視点も何とか追いすがりながら、対処することができた。電子メール、インターネットまで学び、見たいホームページも呼び出すことができた。

十二時間、光明を見る思いの講習会であった。受講の機会を与えられありがたいと思う。区の諸関係機関に感謝申しあげたい。

（久が原四丁目　新井信子）

ありがとうおにいさんたち
子どもレク大会 中学生と遊ぼう

「あれをやったよ。」「これもやった。」「友だちもいっぱいできた。」「おにいさん、おねえさんやさしかった。」「もっとやりたかった。」「ぼく、どの中学校にいくのかな。」

遊びを終えて、校庭を後にする子どもたちの弾んだ声が聞こえてきました。3月9日（土）に大森十中で開かれた子どもレク大会での様子です。

大森十中生徒を中心に運営されるこの大会は、今年で2回目です。子どもたちから自然にこのような感想が出るということは、大成功だったと中学生たちをほめてあげたい。中学生に遊んでもらい、楽しませてもらった子は、数年後、自分が面倒を見る側に立ってくれることでしょう。

どのコーナーでも、中学生たちと子どもたちが交わる微笑ましい光景を目にすることができました。

地域にこのように中学生の力が活かされるのは、素晴らしいことだと思います。中学生の皆さんは、自分たちの力で地域に貢献できたのだということを自信につなげてください。心も体も急成長する中学生時代、それを理解し、活動の場を与えてあげることは、とても意味のあることだと思います。

この活動の背後には、地域での子育て支援を率先して、献身的に縁の下の力持ちに徹してくださっている青少対の方々がいます。

子育ては、地域協力があってのものと思います。子どもたちが縦の関係を遊びの中で学べるような会を、今後とも大切に守り育てていきたいと思います。

（松仙小学校校外生活委員長　権守美和子）

俳句

河口とは一の橋まで葦の角　田口静枝
梅の香や願ひの数の絵馬あふれ　石黒啓子
荒屋敷桜残して売られゆく　山本　薫
新入生桜の迎へる学舎かな　長　良寛
春眠の遅刻を誘ふ入社式　丸沼研二

委員会からのお知らせ

四月一日、大田区では大規模な組織改正を行い、従来の23部局は17へと整理統合されました。

4つの保健福祉センターは地域行政センターへと衣替えし、久が原特別出張所は、大田西地域行政センターに属する一部署となりました。

これらは、行政サービスの向上と事務の効率化を一層推進する目的で行われたものです。

詳しくは区報に掲載されております。どうぞよろしくお願いいたします。

問合先（3752）4271

編集後記

○今年も各学校には新一年生が、夢と希望を膨らませて入学します。将来に向けて大きく育つようお祈りいたします。

○中学生が中心となって地域の小学生たちを楽しませる子どもレク大会は今年で二年目となり、さらに充実したものとなりました。

○川又前編集長、永い間ご苦労様でした。本紙発足以来、編集長として活躍されました。

○町の情報をみなさまにお届けするためにも、広く皆様からのご意見、原稿をお待ちいたします。

（おばら）